



GLOBE

グローブ

第112期
第2四半期(中間期)
事業報告書

2025年1月1日
~2025年6月30日

証券コード: 4463

株主の皆様へ

TOP MESSAGE

売上高・営業利益ともに上期として過去最高。 収益性の向上と株主還元を強化し、持続的成長へ。

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2025年12月期(第112期)第2四半期(中間期)決算概況
についてご報告申し上げます。

当中間連結会計期間における世界経済は、ウクライナ及
び中東情勢の地政学リスクによる影響が懸念される状況が
続いております。また、足元の米国トランプ政権による相互
関税など保護主義的な政策等により、世界景気に与える影
響は極めて複雑で不透明な状況となっています。また、
わが国経済は、個人消費の持ち直しやインバウンドの影響
等により景気は緩やかな回復基調となっておりますが、米
国の関税政策により、今後は国内景気に与える影響が懸念
されます。

このような中、当社グループは企業パーパス「Activate
Your Life」に基づき、中長期成長ビジョンとして『世界中
のお客様から最も信頼されるイノベーション・カンパニー』を
掲げ、当パーパス、ビジョンのもと策定した3か年中期経営
計画において、5大戦略の「事業構造の大転換」「メリハリの
ある投資」「生産性改革」「サステナブル経営の推進」「大家
族主義の進化」の推進に取り組んでまいりました。

その結果、売上高・営業利益ともに上期として過去最高と

なりましたが、経常利益・
親会社株主に帰属する中
間純利益は為替の影響を
受け減益となりました。ま
た、この上期の業績状況と
当期下期における為替想
定を見直した結果、通期の
連結業績予想について、経
常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益が前回発表
予想を下回る見込みとなりました。



一方、昨年7月に公表した「資本コストや株価を意識した
経営の実現に向けた対応について」については、この7月
31日にアップデート情報として「取り組み方針に対する足
元の進捗状況」を公表いたしましたので、こちらから詳細な
内容をご参照ください。

今後も激変していく経営環境をビジネスチャンスへと昇
華し、社会からますます必要とされる価値を提供する事業
に注力し、永続的成長を目指してまいります。

代表取締役社長 江守康昌

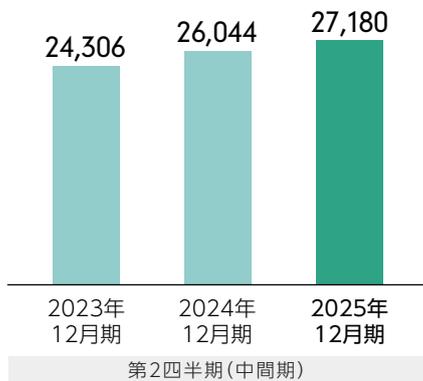
売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 中間純利益	中間配当金
27,180 百万円	1,935 百万円	1,752 百万円	997 百万円	30 円
4.4% 増	19.0% 増	12.7% 減	18.1% 減	5円 増

業績ハイライト

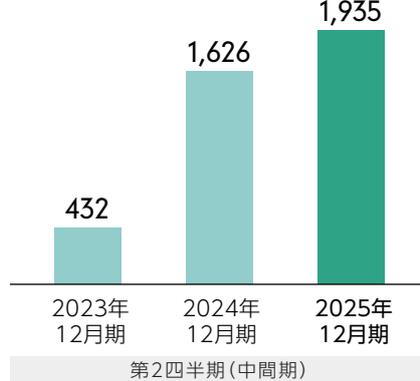


2025年12月期中間連結業績は、売上高271億円(前年同期比4.4%増)、営業利益19億円(同19.0%増)となり、いずれも上期として過去最高を更新しました。一方、為替変動の影響により経常利益は17億円(同12.7%減)、親会社株主に帰属する中間純利益は9億円(同18.1%減)と減益となりました。

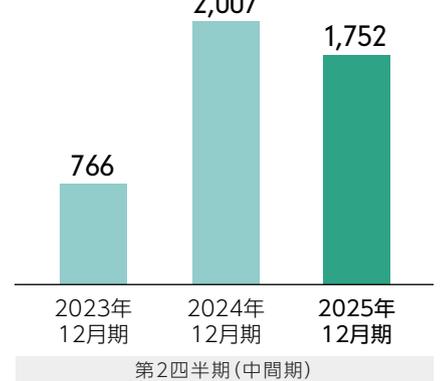
売上高 (百万円)



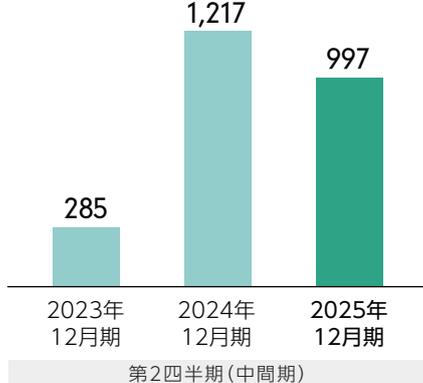
営業利益 (百万円)



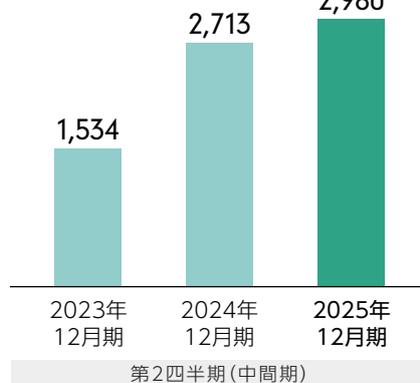
経常利益 (百万円)



親会社株主に帰属する中間純利益 (百万円)



EBITDA (百万円)



ROE (%)



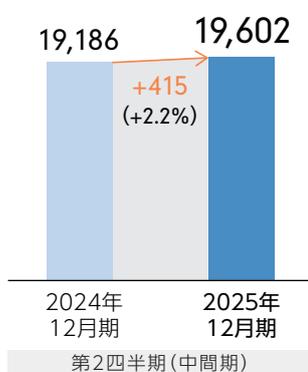
EBITDA:本業による利益を示す現金収益力の指標
(計算式:EBITDA=営業利益+減価償却費)

セグメント情報

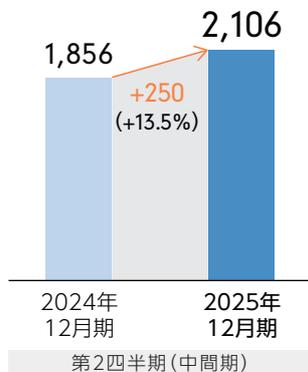
化学品事業



売上高 (百万円)



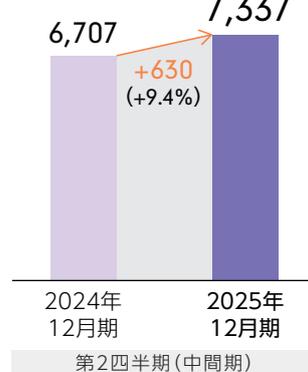
セグメント利益 (百万円)



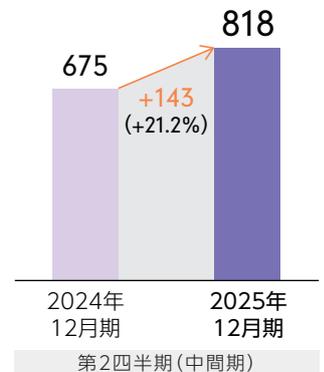
化粧品事業



売上高 (百万円)



セグメント利益 (百万円)



増収・増益 売上高、セグメント利益額・率ともに過去最高

繊維化学品は高付加価値EHD関連売上高比率向上や新規ビジネス獲得の一方、第2四半期中途からトランプ関税の影響を受けました。また電子材料関連工程薬剤の売上が伸びました。これら売上高増により、製造経費や販売管理費が増加したものの、増収増益となりました。

増収・増益

売上高は過去最高

デミ コスメティクスにおいては物価上昇など国内経済が不透明な中、主力ヘアケアや新商品の拡販により堅調に推移しました。デミコリアは市況悪化の影響を受けましたが、山田製薬の受託事業は好調に推移し、増収増益となりました。

2025年12月期第2四半期(中間期) 施策の進捗



化学品事業

施策

進捗状況 | 第2四半期(中間期)

<p>成長・高収益事業への傾注</p> <ul style="list-style-type: none"> EHDに紐づく新規ビジネス・新規エリアの獲得 (EHD売上比率50%) グループ一体となったグローバル拡販 デジタル領域のグローバル展開と新規ビジネスの創出 	<p>EHD関連製品売上高比率 上期で45.0% (前年同期比+0.4pt) EHD製品利益率 +10% (従来製品比、24年12月期実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 新規ビジネス・エリア 新たな電子材料分野の取組開始、繊維加工薬剤でインド伸長 グローバル拡販 フッ素フリー系撥水剤、環境配慮型工程薬剤 伸長継続 デジタル領域グローバル展開 台湾、韓国中心に推進中
<p>収益性向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 戦略的調達によるコストダウン (中国、インド、オレオ化学品) マーケティング力とプライシング力の強化 リスクマネジメント (為替、地政学) 	<ul style="list-style-type: none"> マーケティング力・プライシング力強化 一部価格改訂・原料代替取組中 リスクマネジメント トランプ関税による影響継続注視



化粧品事業

施策

進捗状況 | 第2四半期(中間期)

<p>優良サロンの獲得</p> <ul style="list-style-type: none"> 営業人員増強によるサロンサポート強化 DEMI LABOを起点としたユーザー認知と顧客獲得 	<ul style="list-style-type: none"> 営業人員増員、新規サロン獲得・既存サロン顧客内シェア拡大に向けた活動を強化 オウンドメディア「DEMI LABO」 PV数 25/1Q比で+25% トライアルEC購入者数 前年同期比+49%
<p>新商品によるサロン内シェアアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> 新ブランド「サマーバー」、「DEMI DO」追加品 	<ul style="list-style-type: none"> ヘアケア 「サマーバー」 堅調に推移(前年同期ハレマオ比+46%) 「DEMI DO」 追加品 予定通り7月15日発売
<p>デミコリア / 店販を基軸にシェア拡大</p>	<ul style="list-style-type: none"> ヘアケア売上 +22% (韓国経済後退の中、デミコリア健闘)
<p>化粧品新工場建設開始</p>	<ul style="list-style-type: none"> 予定通り進捗



SUMMER BAR

2025年12月期通期 連結業績・配当予想 (2025年1月1日~2025年12月31日)

売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益	年間配当金
57,000 百万円	3,600 百万円	3,400 百万円	2,400 百万円	60 円
5.4% 増	2.3% 増	14.5% 減	12.9% 減	8円 増

「中長期グループ成長シナリオ ~資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について(アップデート)~」

- より資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて、2024年7月に「中長期グループ成長シナリオ」を策定
- 低PBR改善に向けた三大施策「事業の収益性改革」「財務/資本政策の見直し」「SR/IR強化」に対する足元の進捗状況などについて、2025年7月31日に「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について(アップデート)」を公表



詳しくはこちらから
ご参照ください

2035年までに目指したい姿(現状2024年)

売上・利益面での成長に加え、**ROE=安定的に10%以上**を重点目標とし株主還元策と併せて投資家の皆様の期待に応えて行く

重点目標	ROE=安定的に 10%以上	
売上高	750億円 (540億円)	規模より事業PF変革を重視
営業利益率	10%以上 (6.5%)	高付加価値事業に傾注
ROE	10%以上 (8.6%)	株主資本コスト*1を安定的に上回る
ROIC	8%以上 (5.8%)	WACC*2を安定的に上回る
DOE	3%以上 (2.5%)	2~3年以内に達成を目指す
PBR	1倍以上 (0.57倍)	早期達成を目指す

取り組み方針と進捗状況

取り組み方針 1 事業の収益性改革	
化粧品新工場	25年4月着工
EHD売上高比率	19年30% ▶ 25年上期45%
営業利益率	19年3.0% ▶ 25年6.5%
取り組み方針 2 財務/資本政策の見直し	
財務レバレッジを効かせた成長投資	新工場へのシンジケートローン組成 (140億円)
不要資産の整理・圧縮	米国子会社の土地売却
取り組み方針 3 SR/IR強化	
年間配当金	19年16円 ▶ 25年予想60円
IRサイト、個人投資家向け会社説明会等の充実	

*1 当社の株主資本コストは約8%と推定 ※2 現状のWACCは約6%と推定、負債コストは今後上昇すると想定

TOPICS

2025年
5月

TBS系SDGsプロジェクトで「ネオクロマト加工」のワークショップを実施



当社は、TBS系SDGsプロジェクト「地球を笑顔にする広場 2025春」に、福井県の地域循環型プロジェクト「ぐるぐるふくい」の一員として参加しました。当社の「ネオクロマト加工」でタオルを脱色し、自分の絵をプリントしてオリジナルタオルとして再生する循環のアイデアを約180名に体験いただきました。スタッフが丁寧に解説することで「ものづくりの楽しさ」や「資源を大切に作る心」を次世代にも伝える機会となりました。今後も持続可能な社会の実現に向け、地域や次世代への貢献を続けてまいります。

※ネオクロマト加工：わずかな数分で、水を一切使わずにポリエステル生地の染料を脱色できる技術

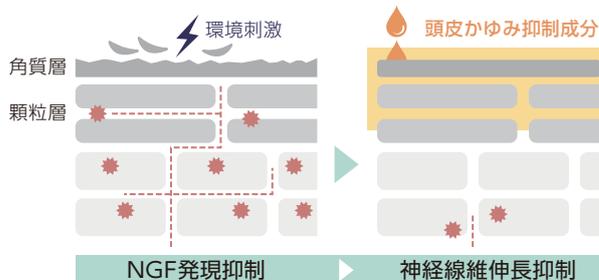
2025年
6月

デミ コスメティクスが頭皮かゆみを抑制する成分を発見

当社デミ コスメティクス毛髪科学研究所は、頭皮のかゆみの原因となる「神経伸長因子(NGF)」を抑制する成分を発見し、特許出願および学会発表を行いました。頭皮のかゆみは年代・性別を問わず多くの人々が抱える悩みで、抜け毛、毛髪のハリコシ低下などの原因となります。本研究では、メカブ・ヒジキ・納豆の抽出物を組み合わせることで頭皮のかゆみを抑制できることを明らかにしました。今後はこの成果を活かし、頭皮悩みを抱える多くの人々に向けたスカルプケア商品の開発を目指してまいります。

環境刺激に対する機能性成分の組み合わせによるNGF発現抑制イメージ

● NGF (Nerve Growth Factor 神経伸長因子) --- 神経線維



2025年
7月

「DEMI DO ASSET (デミドゥ アセット)」新発売

当社デミ コスメティクスは、スカルプケアブランド「DEMI DO (デミドゥ)」から、女性のエイジングによる多面的なお悩みにアプローチする「DEMI DO ASSET (デミドゥ アセット)」を発売しました。独自技術と処方でのハリのある頭皮とうるおいのある美髪に導きます。



2025年
7月

スポンサードリサーチレポートを発行

(株)ストラテジー・アドバイザーズによる当社のスポンサードリサーチレポートが発行されました。当社は、積極的なIR活動を推進しており、本レポートもその一環として当社が作成を依頼したものです。ビジネスモデル・事業戦略・成長戦略・業績推移に加え、企業DNAや模倣困難性などについても簡潔にまとめられています。また、続けて四半期決算ごとにフォローアップレポートが発行される予定です。今後も、当社への理解を一層深めていただけるよう積極的な情報発信に努めてまいります。



その他最新情報については、こちらをご参照ください。

<https://www.nicca.co.jp/topics/>

2025年2月にIRサイトをリニューアルしました。併せてこちらをご参照ください。

<https://www.nicca.co.jp/ir/>